「弁護者キリスト」　2025 年 11 月 21 日

私の子たちよ、これらのことを書くのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。たとえ罪を犯しても、私たちには御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます。この方こそ、私たちの罪、いや、私たちの罪だけではなく、全世界の罪のために宥めの献げ物です。私たちは、神の戒めを守るなら、それによって神を知っていることが分かります。「神を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であり、その人の内には真理はありません。しかし、神の言葉を守るなら、その人の内に神の愛が真に全うされています。これによって、私たちが神の内にいることが分かります。神の内にとどまっていると言う人は、イエスが歩まれたように、自らも歩まなければなりません。（Ｉヨハネ 2：1～6）

著者は、読者に対し「私の子たちよ」と呼びかけている。ヨハネ教団の偉大な指導者であったのであろう。私の神学生時代には、「私の子たちよ」と呼びかけられても、全く違和感のない大長老のような、皆から尊敬されている神学者、牧師がおられた。しかし最近は、そのような師弟関係は少なくなっているのではないか。尊敬の思いを寄せる声は聞くが、手厳しい批判もあり、神学界も相対化が行きわたっているようだ。また、師弟の人間関係が希薄になっていることもあるようだ。当世風になってきたことは当然かも知れないが、「私の子たちよ」と呼びかける大長老がいてほしい気がする。

著者は、この手紙を書いたのはあなたがたが罪を犯さないようになるためであると言い、「たとえ罪を犯しても、私たちには御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます」と、キリストに注目させている。たとえ罪を犯しても、神に執り成す弁護者としてのキリストがおられる。弁護者キリストは、「私たちの罪、いや、私たちの罪だけではなく、全世界の罪のための宥めの献げ物です」と、自分たちだけでなく、全世界の人々の罪を贖うために自らを献げられたと語る。キリストは、ご自身を十字架に献げて人間の罪を贖い、私たちを罪なき者として、神と結び付けてくださった。キリストの十字架は贖罪の出来事であったと力説している。そして、「私たちは、神の戒めを守るなら、それによって神を知っていることが分かります」と、神の戒めを守る者は、罪を贖われ、神を知る者となる。神の戒めは、ヨハネ福音書 15 章 12 節で、「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの戒めである」と明確に規定している。主イエスが命を懸けて、弟子たちを愛されたように、互いに愛し合うことが戒めである。反対に、「『神を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は偽り者であり、その人の内には真理はありません」と言う。ヨハネの手紙一は、「『神を知っている』と言いながら」とあるように、福音を抽象化して受け止め、具体的な愛に生きていない人々を対象にして書かれている。知識があっても、実践しない人に対する諭しである。「しかし、神の言葉を守るなら、その人の内に神の愛が真に全うされています。」主イエスに愛されたように互いに愛し合うなら、その人の内に神の愛が実現し、神の内にいることが分かる。「神の内にとどまっていると言う人は、イエスが歩まれたように自らも歩まなければなりません。」戒めを守る者は、主イエスが歩まれたように、光の中を歩む。弁護者キリストは、罪を赦し、神と共にあるインマヌエルの救いを与えてくださった。この方の戒めを守って生きるように、著者は勧めている。